

## 2025年度 専修大学 高校教員対象 研修プログラム

実施期間：2025年7月29日（火）、7月30日（水）

実施方法：専修大学生田キャンパス 9号館

主 催 専 修 大 学

後 援 文 部 科 学 省  
神奈川県教育委員会



## <2025年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」ご案内>

★主催：専修大学

★後援：文部科学省、神奈川県教育委員会

★実施期間：2025年7月29日（火）、7月30日（水）  
10:00 開講式

★実施会場：専修大学生田キャンパス 9号館

●小田急線 向ヶ丘遊園駅 下車（新宿から急行で約20分）

【バス】北口より「専修大学9号館」、「専修大学前」、「あざみ野駅」または「聖マリアンナ医科大学」行きバスで約10分

【徒歩】南口より14～20分（次頁をご参照ください）

●東急田園都市線・横浜市営地下鉄 あざみ野駅 下車

【バス】「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約35分

★定員及びお問い合わせ先 ※@を"(a)"表記にしています。

教科	日時	定員	お問い合わせ先
倫理	7月29日（火）	40名	金子 洋之 hkaneko(a)isc.senshu-u.ac.jp
国語	7月29日（火）	30名	山口 政幸 yamachi(a)isc.senshu-u.ac.jp
日本史	7月29日（火）	50名	歴史学科 inforekishigaku(a)gmail.com
世界史	7月30日（水）	50名	
英語	7月30日（水）	30名	上村 妙子 taekok(a)isc.senshu-u.ac.jp
地理	7月30日（水）	20名	江崎 雄治 esaki(a)isc.senshu-u.ac.jp

※お問い合わせは、上記のEメールのみとさせていただきます。

※電話・FAX等でのお問い合わせはご遠慮ください。

### ★申込方法

専修大学ホームページより申込フォームに必要事項を入力し、  
「送信」をクリックすることで申込手続きが完了となります。

2025年度高校教員対象研修プログラムHP

<https://www.senshu-u.ac.jp/event/nid00025115.html>

★申込締切：7月4日（金） 10:00まで

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選された方には  
受講方法に関する詳細を申込時にご登録いただいたメールアドレス宛  
にご案内いたします。（7月11日（金）予定）

※なお、抽選にもれた方へも同日中にメールにてお知らせ致します。

### ★参加費：無料

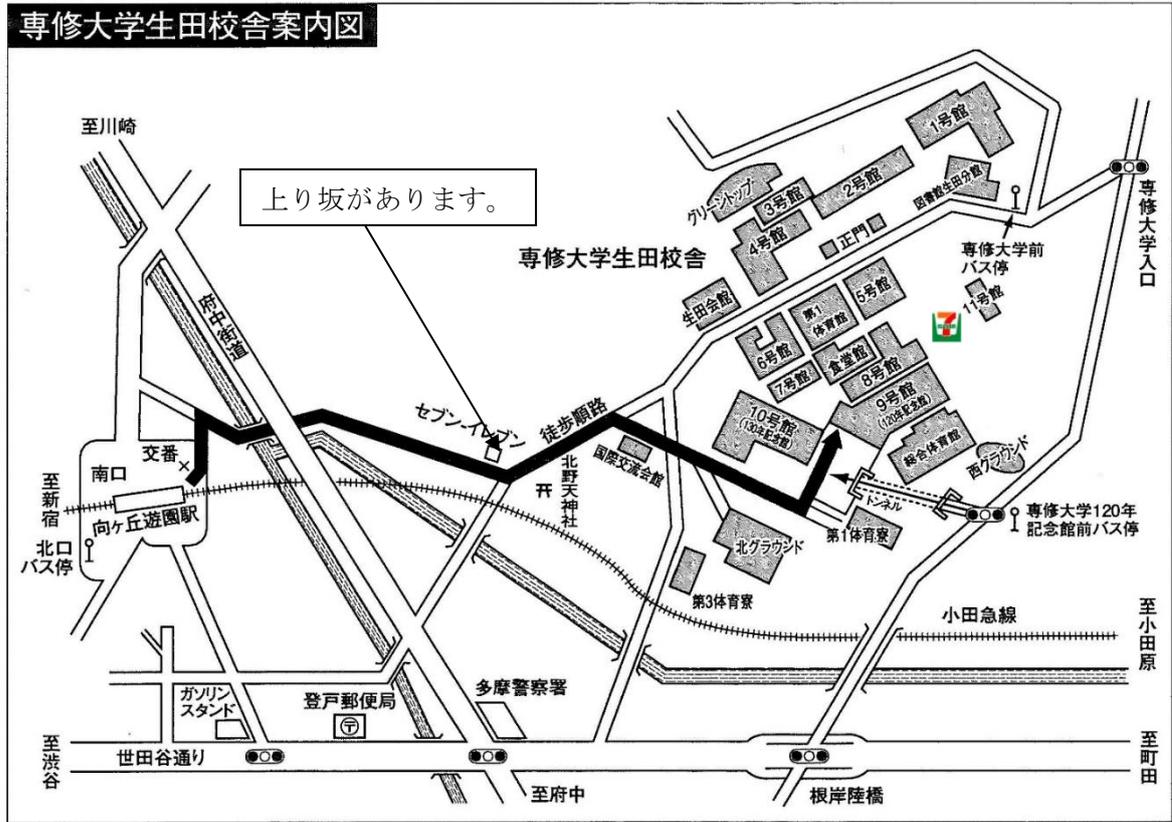
1. 会場には駐車場がございませんので来場の際は公共交通機関をご利用ください。
2. 本学では宿泊施設のご案内は行っておりません。

2025年度高校教員対象  
研修プログラムHP



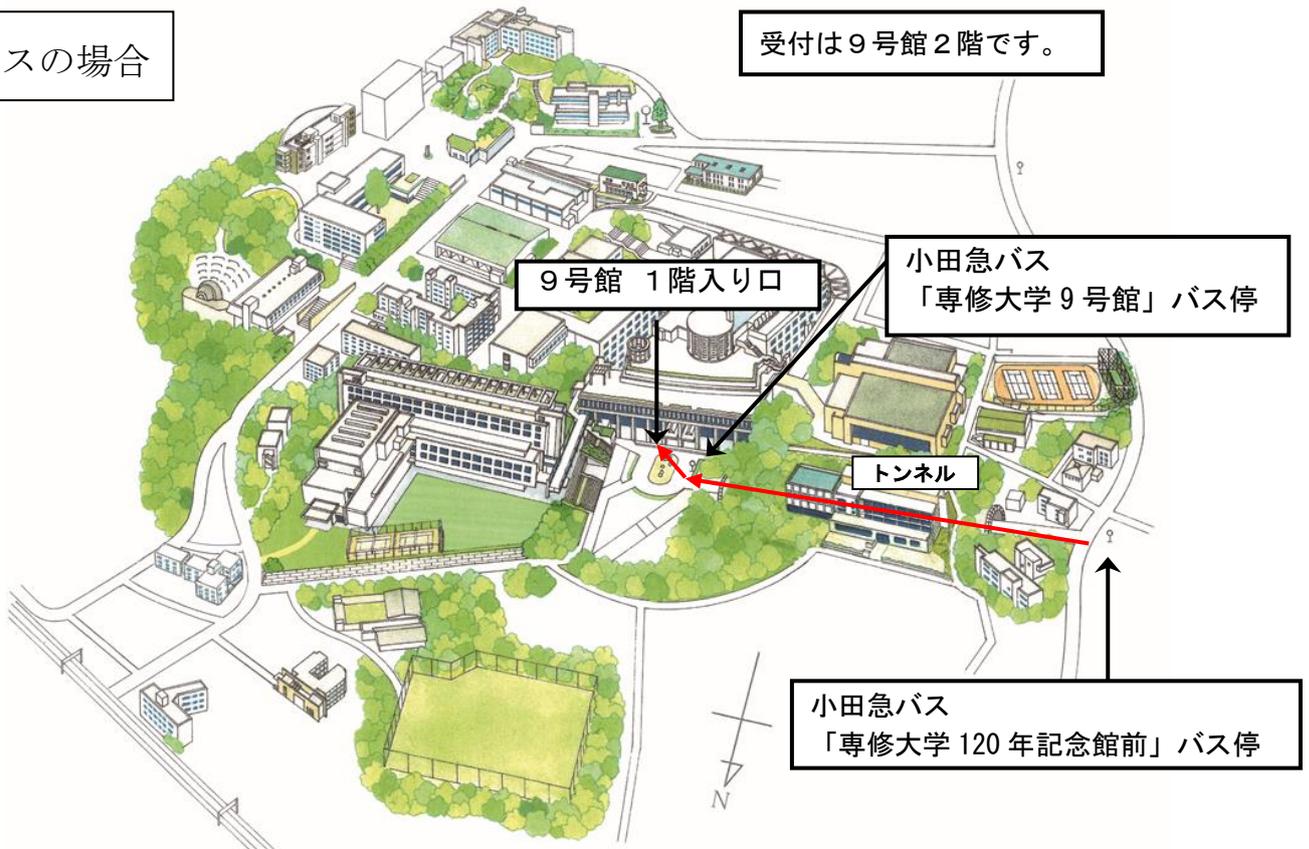
## <会場（生田キャンパス 9号館）へのアクセス>

**徒歩の場合** (向ヶ丘遊園駅からの徒歩経路) 所要時間14~20分



## <会場（生田キャンパス 9号館）へのアクセス>

**バスの場合**



## <2025年度 専修大学「高校教員対象 研修プログラム」概要>

倫 理 ..... 4

高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

国 語 ..... 7

新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

日本史・世界史 ..... 11

歴史研究の最前線

英 語 ..... 15

これからの英語指導を考える —英語史と英語教育史からの展望—

地 理 ..... 18

地域をとらえる地理的な視点

文学部学科紹介



## 倫 理

### 高校の教育から大学の哲学教育へ、あるいは大学の哲学研究から高校の教育へ

この研修プログラムの目的は、まず第一に大学での哲学の講義・教育が実際にどのように行われているのかを見ていただくことにあります。そしてそれを起点にして、高校の教育を大学の哲学教育にどう接続するか、大学の研究成果から高校の倫理や公共（あるいは論文指導）で使える材料をどう引き出すか、大学新入生の背景的な知識を大学側がどう踏まえるべきかなどの問題を考え、ご意見をいただいております。これは、本プログラムの基本的な目的であり、これまでその目的に沿った講義を用意してまいりました。しかしながら、近年は倫理という科目が縮小される傾向にあり、多少カバーする範囲を広げる意味で、昨年度は、上記の目的に加え、論理的に文章を読むということがどのようなことであるのかという視点を取り入れてみました。本年はそれに代わるものとして、思考の構造分析という話題が取り上げられています。

**期日：2025年7月29日（火）**

**定員：40名**（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

10：30～10：40 挨拶・趣旨説明 担当：金子洋之（文学部教授・副学長）

10：40～12：00 「倫理思想としての「もののあはれ」」講師：出岡 宏（文学部教授）

「色即是空」という、高校倫理でも学習する言葉がある。「色」即ち「いろ・かたち」ある物質（で構成されたこの世）は、「空」即ち「縁起」という関係性によって生じる現象であり実体ではない、という意味である。だがこの語は「空即是色」という仕方でも反転される。その際、反転前の「色」は静的に実体視された「いろ・かたち」である故に否定されるのに対し、反転後の「色」は、関係性によってその都度現成する、世界の動的なありようを意味し、その限りで肯定される。世界と自身を動的なものとして生きるとき、生硬な「無常観」とは異なる無常感受としての「もののあはれ」が成立する。すなわち、「もののあはれ」とは、瞬間ごとの現れである世界や他者・他物とのしばしの共振であり、さらにそれを失うところに生じる感慨である。それは世界理解であり美の体験であり生の学びでもある。ここでは、以上のようなことを、いくつかの例を示しながら考えてみたい。

12：00～13：00 昼休み

13：00～14：20 「どのように美しいものを判断するのか——カント美学入門」  
講師：宮崎 裕助（文学部教授）

美とは何でしょうか。この問いは、伝統的には「美学」という学問によって探究されてきました。人間の価値の総体は「真・善・美」の三幅対でしばしば語られますが、美学が取り組むのは「真」と「善」以外の価値の「美」です。美学は、哲学と倫理学、認識論と行為論のあとに来る第三の学問として、比較的重要なものとみなされてきました。美醜を判断する趣味の問題は、後回しでかまわないというわけです。

しかし、本当にそうでしょうか。18世紀末ドイツの哲学者イマヌエル・カントは、美や趣味の問題こそ、感性（センス）が問われる課題、人間の能力にとって最も重要な課題に位置づけました。真偽や善悪を判断することが重要であればこそ、その根幹では、判断する力が研ぎ澄まされていなければならないのです。この講義では、美を判断する私たちの能力を問うことを通じて、カント美学入門の時間としたいと思います。

14 : 30～15 : 50 「考える」ときわたしたちは何をしているのか :

思考の構造分析と超越論的哲学」講師 : 貫 成人 (文学部教授)

「自分の頭で考えなさい」とよく言われます。知識偏重の勉強や試験への批判の文脈で登場し、大学教育の現場でもしばしば用いられる言い方です。

しかし、そもそも「考える」とはなにを、どうすることなのでしょう。

哲学や認知科学の場ではさまざまな思考が登場します。「論理的思考」「数学的思考」「概念的思考」「構造的思考」、また、「解釈」「決断」「判断」なども広義の「思考」です。ときに思考は哲学そのものの骨組みをも決定しました。デカルトの「コギト」はその一例です。

今回は、わたしたちが「考える」ときになにが起こっているのか、カントやフッサール、パース、ガダマー、フーコーなどの洞察、また社会史からえられる知見などをふまえて考えてみたいと思います。

それによって哲学、または「超越論的哲学」がなにをする営みなのかも明らかになるでしょう。

※それぞれの講義には質疑応答時間20分を設けております。本年は懇談会を行いません。

専修大学文学部哲学科  
専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 伊藤博明（いとう・ひろあき）教授   | 芸術論、思想史                             |
| 出岡 宏*（いずおか・ひろし）教授  | 日本倫理思想史／日本人の自然観、芸道の思想、小林秀雄の思想       |
| 金子洋之（かねこ・ひろし）教授    | 論理学、数学の哲学、言語哲学／直観主義の哲学的基礎、フレーゲ研究    |
| 佐藤岳詩（さとう・たけし）准教授   | メタ倫理学／応用倫理学                         |
| 島津 京（しまづ・みさと）准教授   | 芸術学／美術史                             |
| 高橋雅人（たかはし・まさひと）教授  | ギリシア哲学                              |
| 貫 成人*（ぬき・しげと）教授    | 現象学、現代思想、舞踊美学、歴史理論／身体論、歴史と世界システムの理論 |
| 檜垣立哉（ひがき・たつや）教授    | フランス現代哲学 日本哲学 生命と自然                 |
| 宮崎裕助*（みやざき・ゆうすけ）教授 | 西洋哲学、ヨーロッパ現代思想、美学と政治、脱構築の思想         |

文学部 哲学科



## 新たな国語への展望と日本語・日本文学文化

今回は、新たな時代の高校国語への展望について3名の講師によりレクチャーを展開いたします。最初に、高校国語科の新しい科目に要求されている「話すこと・聞くこと」の育成に関して日本語研究の観点を踏まえて、つぎに近世小説における先行作品の使い方、いわゆる典拠の問題への解釈や考察について、さいごに大きく視野を広げて、東アジアの輪廻転生譚の展開の一端を、それぞれの講師から、その豊かな知見をまじえてお話しいたします。

期日：2025年7月29日（火）

定員：30名（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

10:10～10:20 開会挨拶 山口 政幸（文学部日本文学文化学科）

10:20～11:20 日本語研究の成果を国語科の学習にどう生かすか

担当：山下 直（国際コミュニケーション学部日本語学科）

平成30年版高等学校学習指導要領国語科の指導事項では、言葉に対する理解を深めることだけでなく、実際に言葉を使うことを意識して資質・能力を育成することが求められています。「現代の国語」の指導事項を例に挙げると、「話すこと・聞くこと」のウに「話し言葉の特徴を踏まえて話したり」という文言が見られたり、「書くこと」のウに「根拠の示し方や説明の仕方を考える」という文言が見られたりします。話し言葉の特徴を踏まえたり、根拠の示し方や説明の仕方を考えたりするためには日本語学の知見が役立つはずですが、実際に言葉を使うことを意識して資質・能力を育成するには、日本語研究の成果を国語科の学習に生かすことが効果的であると考えられます。このような視座から日本語研究の成果を国語科の学習にどのように生かすかを考えてみたいと思います。

11:20～12:20 近世小説と典拠

担当：丸井 貴史（文学部日本文学文化学科）

古典文学の本文は、先行作品を何らかのかたちで利用しているものが大半です。したがって、古典文学の読解において典拠を踏まえることがきわめて重要なのはいうまでもありません。古典文学の研究が典拠探しから始まることが多いのも、そのことを裏付けているといえます。では、典拠があるからいったい何だというのでしょうか。本当に大切なのは、どの作品が典拠に用いられているかということではなく、その作品が典拠として用いられる必然性はどこにあったのか、また、その典拠が作品に及ぼした作用とはいかなるものであったのかを考えることです。典拠研究は、何よりもまず「読み」を深めることを目的として行われなければなりません。この講義では、上田秋成『雨月物語』を中心に、近世の小説を題材として、典拠の役割について考えてみたいと思います。

12:20～13:30 昼食と懇談／図書館見学ツアー（希望者）

13:30～14:30 東アジアの輪廻転生と〈シルシ〉の物語

担当：宇野 瑞木（文学部日本文学文化学科）

死を越えてなお続く関係性を語る物語は古今東西に見いだせるが、東アジアにおいては仏教の「輪廻」観の影響が大きいことがいえる。但し、東アジアではインド仏教の「輪廻」観をさらに大きく変容させて展開したようである。つまり、もとは迷いの状態を永劫に繰り返さねばならない恐るべきシステムであった「輪廻」が、中国では、現世で成就しなかったことを来世に託すことができる仕組みとして、むしろ積極的に解釈され直したのである。また輪廻転生を語る物語の特徴に、見えない因果の糸のあやなす次元を可視化するなんらかの仕組み（たとえば傷跡・名前・数の一致といった何らかの〈シルシ〉など）が語られることが挙げられる。今回は、死者が転生先をコントロールすることができるという新しい「輪廻」観に基づく東アジアの輪廻転生譚の展開の一端を、中国、日本、韓国、さらにベトナムといった地域まで視野に入れて紹介したい。

専修大学文学部 日本文学文化学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、「専修大学入門ゼミナール」「ゼミナール1・2・3」を担当しています）

- 今井 上（いまい・たかし）教授 平安朝文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学通史／日本文学講義／日本文学研究
- 宇野瑞木（うの・みずき）准教授\* 伝統文化・比較文化研究  
主な担当科目：伝統文化研究／比較文化研究
- 大浦誠士（おおうら・せいじ）教授 上代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文化研究
- 小山内伸（おさない・しん）教授 現代文学・演劇研究  
主な担当科目：現代文化研究／演劇研究／現代文学研究
- 川上隆志（かわかみ・たかし）教授 日本文化研究、出版文化論  
主な担当科目：日本文化研究／出版文化論
- 小林恭二（こばやし・きょうじ）教授 小説・俳句・演劇研究  
主な担当科目：日本文化講義／文藝創作
- 鈴木愛理（すずき・えり）准教授 近現代文学研究、国語教育研究  
主な担当科目：日本文学研究／国語科教育法／教育実習
- 鳶尾和宏（つたお・かずひろ）教授 中世文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学研究／日本文化講義／国語科教育法
- 廣瀬玲子（ひろせ・れいこ）教授 中国文学研究  
主な担当科目：中国文学史／中国文学講義／中国文学研究
- 松尾治（まつお・おさむ）准教授 書学・書道史・書写書道教育  
主な担当科目：書道／書道科教育研究
- 丸井貴史（まるい・たかふみ）准教授\* 近世文学・文化研究  
主な担当科目：比較文学研究／日本文化講義
- 山口政幸（やまぐち・まさゆき）教授 近現代文学・文化研究  
主な担当科目：日本文学講義／日本文学通史／日本文学講読
- 米村みゆき（よねむら・みゆき）教授 近現代文学・アニメーション文化論  
主な担当科目：日本文学概論／日本文学講義／ビジュアル文化論／児童文学研究

専修大学国際コミュニケーション学部 日本語学科  
専任教員プロフィール（専攻分野と担当授業科目）

（氏名の 50 音順。\* 印は今回の研修プログラム講師）

（下記科目のほか、2・3. 4 年生のゼミナールを担当しています）

阿部貴人（あべ・たかひと）准教授      社会言語学

主な担当科目：社会言語学／日本語情報処理／日本語の社会的研究

王 伸子（おう・のぶこ）教授      音声学 日本語教育学

主な担当科目：日本語の音声／日本語教育実習 C／日本語表現論 1／日本語（留学生科目）

斎藤達哉（さいとう・たつや）教授      日本語の文字・表記

主な担当科目：日本語の音韻・表記

須田淳一（すだ・じゅんいち）教授      歴史日本語学 文法リテラシー教育

主な担当科目：日本語の歴史的研究／学習文法研究

高橋雄一（たかはし・ゆういち）教授      現代日本語文法 日本語教育学

主な担当科目：日本語の文法／第二言語習得研究

丸山岳彦（まるやま・たけひこ）教授      コーパス日本語学

主な担当科目：日本語の語彙・意味／日本語情報処理／コーパス日本語学

山下 直（やました・なおし）教授\*      日本語学 国語科教育学

主な担当科目：日本語学入門／国語科教育法

## 日本史・世界史

### 歴史研究の最前線

私たち歴史学科の教員は、学生に歴史学の面白さや意義を伝えるべく日々教育と研究に努めています。本プログラムではその成果の一端をお伝えし、新たな視点や歴史解釈をご紹介したいと思います。

高校の先生方との意見交換も本プログラムのねらいのひとつです。高等学校の歴史教育においては「歴史総合」が導入され、先生方も工夫を凝らしながら熱のこもった授業を展開しておられることと拝察いたします。先生方の日頃の授業実践についてお話を伺い、私たちも刺激を受けたいと願っています。豊かな自然に恵まれた生田キャンパスにおいて、皆様と直接交流を深められることを楽しみにお待ちしております。

日本史科目（歴史A／歴史B）と世界史科目（歴史C／歴史D）は、毎年新たな内容にて開講されます。研修へのご参加は、A・B・C・Dから全部、あるいは一部分を選んでいただくことが可能です。ご自由に組み合わせてお申し込みください。

**期日：2025年7月29日（火）・30日（水）**

**定員：日本史・世界史（歴史A～D）各50名程度、両日にわたり複数の講義に応募可**

（応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

## ◆ 日本史 7月29日(火)

10:10~10:30 ご挨拶(歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「日本における仏教の受容とその意義」(歴史A)

講師: 中林 隆之(文学部教授)

インド周辺で成立してイスラム圏を除くアジア地域一帯に展開した世界宗教である仏教が、日本列島に受容される事情と背景について、東アジア諸国との関係、とりわけ朝鮮半島諸国の動向との関わりから考えます。また日本列島で導入された仏教が担った政治上・文化上の意義についても話してみたいと思います。なお、受容の問題については、高等学校教科書の記載との関係についても言及するつもりです。

12:15~13:30 昼休み(歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「朝鮮戦争と米軍基地周辺の社会運動」(歴史B)

講師: 鬼嶋 淳(文学部教授)

2025年は日本の敗戦から80年の節目です。ただ1945年の位置づけは、高等学校新科目である「歴史総合」と「日本史探究」では異なります。新しい視点で歴史の画期を考えることによって、その時代を捉え返すことができます。本講義では、日本社会への朝鮮戦争の影響に注目して、埼玉県所沢地域における駅廃止反対運動や人形劇運動などを取り上げて、地域で生きる人々にとってのアジア・太平洋戦争と占領体験の意味を考えたいと思います。

15:10~ アンケート記入

## ◆ 世界史 7月30日(水)

10:10~10:30 ご挨拶(歴史学科全専任教員から一言ずつ)

### 10:35~12:15 「東アジアにおける青銅器文化の出現と展開」(歴史C)

講師: 高久 健二(文学部長)

日本列島の弥生時代は、稲作農耕文化が定着する時代であり、青銅器や鉄器などの金属器、首長層を埋葬した墳丘墓、防御的性格をもつ環濠集落などが出現します。これら弥生時代に新たに出現した文化要素の多くは、中国大陸や朝鮮半島との交流を通じてもたらされたものです。本講義では、これまでの考古学的な発掘調査成果をもとに、中国大陸における青銅器文化の出現と朝鮮半島への展開過程について論じ、日本列島に入ってきた青銅器文化の起源を探ります。

12:15~13:30 昼休み(歴史学科全専任教員との懇談/図書館見学)

### 13:30~15:10 「18世紀フランスの都市統治から啓蒙の一側面を考える」(歴史D)

講師: 松本 礼子(文学部准教授)

啓蒙思想は高校世界史の重要なテーマのひとつであり、理性重視の立場から既存の権威を否定し、伝統を打破しようとした革新的思想と説明されます。また、ルソーやヴォルテールら啓蒙思想家がフランス革命の思想的基盤を提供したとも考えられています。では、その啓蒙は18世紀の都市統治の現場ではいかなる姿を見せたのでしょうか。本講義では特にパリを事例に、人権思想や解放思想とは異なる啓蒙の一側面に光をあてたいと思います。

15:10~ アンケート記入

## 2025年度 歴史学科 専任教員のプロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

### 飯尾秀幸 (いいお・ひでゆき) 中国古代史

【著書】『中国史のなかの家族』(山川出版社 2008年) 【論文】「秦・前漢初期における里の内と外」(『中国前近代史論集』汲古書院 2007年) 【共訳】「張家山漢簡『二年律令』訳注(1)」～「同(14)」(『専修史学』35号～48号 2003年～2010年)

### 鬼嶋淳\* (きじま・あつし) 日本近現代史

【著書】『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治』(日本経済評論社 2019年)  
【共著】『戦後知識人と民衆観』(影書房 2014年) / 『新生活運動と日本の戦後—敗戦から1970年代』(日本経済評論社 2012年)

### 小林孝秀 (こばやし・たかひで) 日本考古学

【著書】『横穴式石室と東国社会の原像』(雄山閣 2014年) 【論文】「つくば市西栗山遺跡出土の多孔式甗—渡来系資料の評価をめぐる視点—」(『生産の考古学』III 六一書房 2020年) / 「関東北西部の横穴式石室—導入とその系譜をめぐる—」(土生田純之編『横穴式石室の研究』同成社 2020年)

### 志賀美和子 (しが・みわこ) インド近現代史 [歴史学科長]

【著書】『闘う「不可触民」—周縁から読み直すインド独立運動』(有志舎 2025年) / 『近代インドのエリートと民衆—民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合』(有志舎 2018年) 【共著】『新版 わかる・身につく 歴史学の学び方』(大月書店 2025年)

### 高久健二\* (たかく・けんじ) 韓国・朝鮮考古学 [文学部長]

【著書】『楽浪古墳文化研究』(学研文化社 1995年) 【論文】「楽浪・帯方郡埴室墓の再検討—埴室墓の分類・編年、および諸問題の考察—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』151号 2009年) / 「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス—皇南大塚を中心に—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』211号 2018年)

### 多田麻希子 (ただ・まきこ) 中国古代史

【著書】『秦漢時代の家族と国家』(専修大学出版局 2020年) 【論文】「親と子の距離感—中国古代の孝のあり方—」(樋口映美編著『歴史との対話—今を問う思索の旅—』彩流社 2023年) / 「中国古代家族史研究の現状と新たな課題」(『歴史評論』785号 2015年)

### 田中正敬 (たなか・まさたか) 朝鮮近代史・日朝関係史

【共編著】『地域に学ぶ関東大震災』(日本経済評論社 2012年) / 『関東大震災と朝鮮人虐殺』(論創社 2016年) 【論文】「植民地期朝鮮の専売制と塩業」(『東洋文化研究』13号 2011年)

### 田中禎昭 (たなか・よしあき) 日本古代史

【著書】『日本古代の年齢集団と地域社会』(吉川弘文館 2015年) 【共編著】『関東条里の研究』(東京堂出版 2015年) 【論文】「古代戸籍のなかの母子—大宝二年半布里戸籍にみる戸の編成と家族」(『国立歴史民俗博物館研究報告』235号 2022年)

**中林隆之\* (なかばやし・たかゆき) 日本古代史**

【著書】『日本古代国家の仏教編成』(塙書房 2007年)【論文】「石作氏の配置とその前提」(『日本歴史』751号 2010年)／「日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍—更可請章疏等目録の検討より」(『国立歴史民俗博物館研究報告』194号 2015年)

**西坂靖 (にしざか・やすし) 日本近世史**

【著書】『三井越後屋奉公人の研究』(東京大学出版会 2006年)【共編著】『京都冷泉町文書』全7冊(思文閣出版 1991～2000年)【論文】「近世後期江戸における地方出身者の転入と定着—天保十四年・高年御賞対象者を事例に一」(『専修人文論集』108号 2021年)

**南修平 (みなみ・しゅうへい) アメリカ史**

【著書】『アメリカを創る男たち—ニューヨーク建設労働者の生活世界と「愛国主義」』(名古屋大学出版会 2015年)【共著】『「ヘイト」に抗するアメリカ史—マジョリティを問い直す』(彩流社 2022年)【論文】「「ブルックリン・ドジャースを探して」—労働民衆史から捉えたブルックリン・ドジャースとその移転」(『立教アメリカン・スタディーズ』34号 2012年)

**日暮美奈子 (ひぐらし・みなこ) ドイツ近現代史**

【共編著】『<近代規範>の社会史—都市・身体・国家—』(彩流社 2013年)【論文】「帝政ドイツと国際的婦女売買撲滅運動—西部国境を越える女性の移動から考える」(『歴史学研究』925号 2014年)／「アウグステ・ヴィクトリア—皇后の「使命」と母性」(『専修史学』71号 2021年)／「帝政期ドイツにおけるある婦女売買事件の分析」(『専修史学』74号 2023年)

**廣川和花 (ひろかわ・わか) 日本近代史**

【著書】『近代日本のハンセン病問題と地域社会』(大阪大学出版会 2011年)【論文】「「隔離」と「療養」を再考する： COVID-19 と近代日本の感染症対策」(『専修人文論集』109号 2021年)【共訳書】アン・ジャネッタ『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国際ネットワーク』(岩波書店 2013年)

**松本礼子\* (まつもと・れいこ) 近世フランス社会史・都市史**

【共著】『地域と歴史学—その担い手と実践』(晃洋書房 2017年)／『〈フランス革命〉を生きる』(刀水書房 2019年)【論文】「18世紀後半パリのポリスの特質—『悪しき言説』をめぐる取り組みを手掛かりに」(『西洋史学』253号 2014年)

**湯浅治久 (ゆあさ・はるひさ) 日本中世史**

【著書】『戦国仏教』(中公新書)(中央公論新社 2009年)／『蒙古合戦と鎌倉幕府の滅亡』(吉川弘文館 2012年)／『中世の富と権力—寄進する人びと』(吉川弘文館 2020年)

歴史学科



## これからの英語指導を考える —英語史と英語教育史からの展望—

英語英米文学科では受講者と講師、および受講者同士が交流を深め、有益な情報交換の場を提供するために、本年度も教員研修を実施する運びとなりました。

本年度は、英語史（英語学）および英語教育史（応用言語学）をそれぞれ専門にする2名の教員が歴史の観点から、教室でのこれからの英語指導に役立つ知見を提供する予定です。“一方通行型”の知識伝授ではなく、受講される先生方を巻き込みながら、“知的興奮”にあふれる時間を過ごしたいと思います。

なお、今回のプログラムは英語史と英語教育史という“歴史”を共通テーマとしているため、できるだけ2つの講義を両方受講していただければと思います。

期日：2025年7月30日（水）

定員：30名

### プログラム

10：15 - 10：20 開会の挨拶

10：30 - 12：00 「英語史の知見を英語教育に活かす—単語・文法の指導を中心に—」

講師：菊地翔太（文学部准教授）

英語史は一般的に遠い過去の言語を対象にしているイメージが強いためか、現代志向の英語学習者には、難解で専門性が高く実用性の低い研究分野だと思われがちかもしれません。しかし、英語史は英語教育に多くの有益な知見を提供する現代志向の側面があり、近年では両者の接点を模索する動きが活発になっています。本講座では、単語・文法に焦点を当て、英語史の知識が英語教育にどのような効果をもたらすのかを考察していきます。

12：00 - 13：00 Lunch Break／図書館ツアー（希望者のみ）

13：05 - 14：35 「日本人と英語発音指導・学習：その歴史とこれからの展望」

講師：田邊祐司（文学部教授）

午後の講座では、中等学校教育における英語音声（発音、リスニングなど）指導を取り上げます。英語音声は英語技能の中核であるはずですが、教育現場では音声は傍に追いやられることが多く、文字を主体とした「視覚型の教育」のなかで読解、文法項目の指導に力点が置かれています。今回は歴史的な観点から、この永年にわたる問題（perennial issue）にアプローチし、歴史の流れからこれまで音声指導に何が起きてきたのかをまとめ、そこから今後の教室における音声指導の新たなかたちを探ってみたいと思います。

14：40 - 14：50 アンケートのお願い

14：50 - 15：00 閉会の挨拶

# 専修大学文学部英語英米文学科

## 専任教員プロフィール

(50音順。\*印は今年度の講師担当教員。業績は主なものを記載。)

石塚 久郎 (いしづか・ひさお) イギリス研究、医学史、文学と医学

【著書】 *Fiber, Medicine, and Culture in the British Enlightenment* (Palgrave Macmillan 2016年) 【論文】  
Enlightening the fibre-woven body: William Blake and eighteenth-century fibre medicine (*Literature and Medicine* 25号 2006年) 【監訳】『病短編小説集』(平凡社ライブラリー 2016年)

大久保 譲 (おおくぼ・ゆずる) イギリス文学 (特に近代イギリス小説)

【論文】「海辺のシュルレアリスム——ポール・ナッシュの1930年代」(山口恵里子編『イギリス美術叢書VI エロスとタナトス』ありな書房、2021年) 【翻訳】ステファン・テメルソン『缶詰サーデインの謎』(国書刊行会、2024年)

岡部 玲子 (おかべ・れいこ) 英語学、心理言語学

【論文】「語彙爆発—日本語の自然発話コーパスに基づく考察」(『専修人文論集』109号 2021年) / Lexical integrity and acquisition of N-N compounds in Japanese: A preliminary study (『言語研究の楽しさと楽しみ』2021年) / V-V compounds in child Japanese: An experimental study (*Journal of Japanese Linguistics* 34号 2018年)

片桐 一彦 (かたぎり・かずひこ) 英語教育学、英語教員養成、言語能力の推定

【論文】The Impact of Early English Exposure/Education on Vocabulary Size Through Bayesian Hierarchical Modeling: An Additional Analysis of Katagiri (2019) (*The Annual Bulletin of the Humanities, Senshu University*, 54号, 2024年) / 「コアカリ導入前の教職履修学生の学修と発達状況: 言語教師ポートフォリオ (J-POSTL) の省察を通して」(JACET 関東支部紀要8号 2021年) / Speaking proficiencies among Japanese high school EFL students over a three-year period (*The Japan Language Testing Association Journal* 16号, 2014年)

上村 妙子 (かみむら・たえこ) 応用言語学、英語表現論

【著書】*EFL Grammar for Japanese Students and Teachers* (Senshu University Press 2020年) / *Teaching EFL Composition in Japan* (Senshu University Press 2012年) / 身近な異文化コミュニケーション—ここにユニバーサルデザインを—(パレード 2022年) 【論文】Producing summaries of expository writing: Examining contextual effects (*KATE Journal* 34号 2020年)

\*菊地 翔太 (きくち・しょうた) 英語史、歴史社会言語学

【論文】A comparative study of *wh*-relativizers in Shakespeare and Fletcher (*Studies in Modern English* 33 2017年) / Relativizers in Shakespeare's drama: A sociolinguistic study (*Studies in English Literature. Regional Branches Combined Issue* 7 2015年) / 「世界英語における2人称代名詞の多様性と変化—eWAVEを活用した英語史的な思考法への誘い—」(『専修人文論集』111号 2022年)

Hamish Gillies (ギリズ・ヘイミッシュ) 応用言語学、第二言語(外国語)としての英語教授法

【論文】L2 narrative identity as drama: Exploring links between L2 learning experience and the ideal L2 self (*TESL-EJ* 27(1)号 2023年) / 【共著】Versifying adversity: Using dramaturgically framed poetic inquiry to explore complexity in the second language learning experience (*System* 110号 2022年)

佐々木 優 (ささき・ゆう) アメリカ文化・文学

【著書】*Media Representations of African American Athletes in Cold War Japan* (Peter Lang 2020年)

【論文】 Tigerbelles of Tennessee State University: Race, Gender, and the 1964 Tokyo Olympic Games (*The Griot: The Journal of African American Studies* 37.1 2018 年)

末廣 幹 (すえひろ・みき) イギリス演劇 (特にシェイクスピアと 17 世紀演劇)

【共編著】『コメディ・オヴ・マナーズの系譜——王政復古期から現代イギリス文学まで』(音羽書房鶴見書店、2022 年) 【論文】「Stepping Westward ベン・ジョンソン喜劇のトポグラフィ」(『人文学報』342 号 2003 年) / 「イスラム恐怖を超えて『オセロー』とトルコ化の不安のレトリック」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア～世紀を超えて～』研究社 2002 年) / 「“Theatric genius lay dormant after Shakespeare…” ——ホレス・ウォルポールの『謎を抱えた母』に見られるシェイクスピア崇拝のアンビヴァレンス」(『専修人文論集』第 109 巻 2021 年)

\*田邊 祐司 (たなべ・ゆうじ) 英語教育学、英語音声指導・習得、日本英語教育史

【著書】『日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか：英語音声教育の小通史』(単著、研究社 2024 年) / 『句動詞のトレーニングー「普段着の英語」を身につけよう!』(単著、大修館書店 2023 年) / 文科省検定教科書『Genius English Logic and Expression III』(編集代表、大修館書店 2023 年) 【論文】「回想 英語名人 河上道生先生のこと—」『日本英語教育史研究』第 37 号 (pp.61-79、2022 年)

道家 英穂 (どうけ・ひでお) イギリスの詩、西欧文学の思想史的研究

【著書】『詩と世界のヴィジョン～イギリス・ロマン主義から現代へ～』(平凡社 2023 年) / 『死者との邂逅～西欧文学は(死)をどうとらえたか～』(作品社 2015 年) 【翻訳】ロバート・サウジー著『タラバ、悪を滅ぼす者』(作品社 2017 年)

中垣 恒太郎 (なかがき・こうたろう) アメリカ文学、比較メディア文化研究

【著書】『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』(音羽書房鶴見書店 2012 年) / 『ハーレム・ルネサンス——〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』(共編著、明石書店 2021 年) 【論文】「チャップリンと 1910 年代アメリカ～「放浪者」像の生成～」(『アメリカ文学』76 号 2015 年)

三浦 弘 (みうら・ひろし) 英語音声学・音韻論

【共著】『朝倉日英対照言語学 2 音声学』(朝倉書店 2012 年) / 『現代音声学・音韻論の視点』(金星堂 2012 年) 【論文】「STRUT 母音の変容と音素記号」(『専修人文論集』112 号 2023 年、<https://doi.org/10.34360/00013362>) 【翻訳】ポール・カーリー、インガ・メイス、ビバリー・コリンズ著『イギリス英語音声学』(大修館書店 2021 年) 【その他】『三浦先生の英語音声学』(プロンテスト <https://prontest.co.jp/blog/professor-miuras-english-phonetics/>)

渡邊 真理子 (わたなべ・まりこ) 現代アメリカ文学

【共著】『揺れ動く〈保守〉～現代アメリカ文学と社会～』(春風社 2018 年) 【論文】「幻影のアメリカ～Being There における擬似アイデンティティ～」(『アメリカ文学研究』45 号 2009 年) 【共訳】『スクリブナー思想史大事典』(項目翻訳) (丸善出版 2016 年)

Peter Longcope (ロンコープ・ピーター) 第二言語習得、第二言語教育学

【論文】Missing the mark? Looking at recent language acquisition policy decisions in Japan through the lens of SLA research (『専修人文論集』97 号 2015 年) / Language attitudes and language contact in an FL setting (『専修大学外国語教育論集』43 号 2015 年) / A multivariate analysis of interlanguage differences between learner levels (『英語学論説資料』43 号 2009 年)

文学部 英語英米文学科



## 地 理

### 地域をとらえる地理的な視点

環境地理学科の2名の専任教員が、それぞれの専門分野である人口地理学および地理情報学の講義を行います。講義では、地域人口の今後の動向や、デジタル地図の近年における展開等について、具体的な事例に即して、研究方法を含めて紹介します。

**期日 2025年7月30日(水)**

**定員 20名**

10:10~10:20 挨拶：高岡 貞夫（文学部教授 環境地理学科長）

10:20~11:30 「日本の地域別人口変化と今後の見通しについて」

講師：江崎 雄治（文学部教授）

本講義では、人口に関する諸現象や各指標への理解を深められるような話題の提供を行いたいと思います。まず、日本では置換水準を下回る出生率が半世紀にわたって続いているため、仮にただちに置換水準にまで出生率が回復しても今世紀末まで人口減少が止まらない「減少モメンタム」についてお話しし、続いて「20世紀：多産少死、21世紀：超少子化」という大きな波の中で、この間の人口変化については実は地域差が小さいことなどを解説していきます。

11:30~12:30 昼休み

12:30~13:00 図書館ツアー

13:10~14:20 「デジタル地図化による環境情報の可視化」

講師：縫村 崇行（文学部准教授）

地図の歴史は長く、産業・防災・暮らしなど様々なテーマに特化したわかりやすい地図の存在は私達の生活を豊かにするのに貢献してきました。近年では身の回りの地理空間を観測する技術の発達に伴い、これまでは空間的に捉えにくかった自然現象、例えば気象環境要素や高精細な地形変化などもデジタル地図として見るできるようになっています。地図学の歴史と近年のデジタル地図の社会への活用事例などを解説します。

## 専修大学文学部環境地理学科

### 専任教員プロフィール（専攻分野）

（氏名の50音順。\*印は今回の研修プログラム講師。）

赤坂郁美（あかさか・いくみ）教授 気候環境学（身近な気候の成り立ちと変化、気候変動）

江崎雄治\*（えさき・ゆうじ）教授 人口地理学（人口移動、少子高齢化、地域人口の将来像）

苅谷愛彦（かりや・よしひこ）教授 環境地形学（地形発達、山地の環境変動、斜面変動）

鈴木比奈子（すずき・ひなこ）助教 環境保全学（ジオパーク、防災、ジオ多様性）

高岡貞夫（たかおか・さだお）教授 生態地理学（森の自然の成り立ち、森と人のつながり）

縫村崇行\*（ぬいむら・たかゆき）准教授 地理情報学（環境動態解析、測地、氷河）

松尾容孝（まつお・やすたか）教授 村落地理学（村の神秘の発見、現代農山村の地域構造）

三河雅弘（みかわ・まさひろ）教授 歴史地理学（過去の景観や地域、古地図）

山本 充（やまもと・みつる）教授 地誌学、地域研究（ヨーロッパ・アジア）





文部科学省

<http://www.mext.go.jp/>



神奈川県教育委員会

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6556/>



専修大学ホームページ

<http://www.senshu-u.ac.jp/>



専修大学文学部ホームページ

<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/letters/>



社会知性の開発をめざす

**専修大学** 文学部

高校教員対象研修プログラム実行委員会

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL: 044-911-1254